



令和8年10月9日発行 第2号

7月30日(木)、今年度の第2回学校運営協議会(コミュニティ・スクール 通称CS)が高志中等教育学校校長室で開催されました。会議は筒井会長の開会挨拶から始まり、校長より7月までの学校の進捗状況の報告が行われました。

●7月末までの教育活動進捗状況について

総合的な学習・探究活動：各学年の取り組み状況が報告されました。中等教育学校の特性に合わせ、昨年度より中高一貫の総合学習・探究を再設計し、1年生2年生は探究基礎期、3年以降は探究発展期に移行しました。1年生は、地域・市内・近隣企業課題から学びを深め、2年生は年明けに沖縄フィールドワークで視野を拡大します。3～5年生の縦割り「サンゴゼミ」を学問系統別(例：農業、経済等)にグループ編成し継続しています。



1学期中間考査の実施：高体連大会日程等との調整で時期を分離して実施しました。期末考査は、前期生、後期生が同日開催のため、来年度の日程については、最適化を検討しています。

令和8年度入学選考に向けた取組状況：昨年度より小学生へのPR活動としてメッセージカードを作成し、1年生は出身校へ、2～6年生の有志は市内の小学校へ送りました。オープンスクールの参加者数は、少子化、高校無償化の影響で前年に届かない見込みですが、市立中等教育学校としての魅力(中高一貫・進学実績)と進学率85%以上、難関大・医学部医学科の合格実績の魅力を伝えます。

体育祭実施：体育祭(5月)は軍団のカラー変更など生徒主体で運営し、全学年の一体運営でリーダーの成長を確認しました。今後も生徒の主体的な改善を支援します。

2年生イングリッシュサマーセミナーの実施(7月30日)：市内の公立学校に勤務するALTが来校し、2年生は終日オールイングリッシュで生活しました。

5年生海外フィールドワーク(シンガポール)の開催決定：現地大学訪問、現地学生との交流、日本企業見学等を計画し、見聞を広げる機会とします。訪問に向け語学意欲の維持・向上を図ります。

合唱コンクールをりゅうとぴあで開催決定(11月2日)：クラスの団結・目標達成の喜びを体感する重要行事です。会場を変更し、より良い環境で発表することは、表現することの楽しさや素晴らしさを認識できます。また、校外の公共施設の活用は鑑賞のマナー等、自分の行動を考える機会となります。

その他○7月から猛暑対策・水分補給に対応するため自動販売機を導入しました。生徒会中心に仕様・ルール策定等をし、教育委員会と調整しました○生徒送迎の際の学校前の横付け、近隣店舗での長時間駐車等への苦情があります。注意喚起・是正指導を継続します。○高校生の手話による意見発表会(8/15東京)に県代表1名として参加決定し、中学生の市内「子ども条例」関連発表会、市長懇談に代表生徒が参加したこと等を報告しました。

「地域とともにある学校づくり推進フォーラム2026」の発表について

発表の機会の経緯を説明し、会議の翌日に予定されている発表をリハーサルも兼ねて登壇予定の校長、地域教育コーディネーターが参加の皆様に披露しました。



学びの輪、
地域の和。
未来へ繋ぐ

〈協議〉土曜活用講座と総合探究における地域連携について

●中学校の部活動が地域移行（展開）

放課後の居場所不足

○公園での滞留などの懸念が報告されました。校内の放課後自習・探究スペース（探究室）開放、平日短時間プログラム、地域協働（子ども食堂、地域祭等）など、学びにも結び付く居場所づくりの必要性を共有するため、まず参考として、6月に学校周辺で開始された「子ども食堂」でボランティア活動をする生徒の様子の動画を視聴しました。

○近隣の「子ども食堂」の内容：中学生主体の運営（木・金 16-19 時）、衛生・許認可講義の実施、小学生の学習支援を兼ね、地域高齢者の見守りや交流に波及効果があります。※楽しさを動機としつつも学習要素の組み込み。単純作業型ボランティアではなく衛生・経営・安全等も学習します。

委員より参考事例提供：神戸市「KOBE◆KATSU」の完全地域移行モデル（平日 2 時間、休日 3 時間、学校・地域施設で活動、行政のコーディネート）。

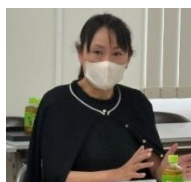


●土曜活用講座の現状と課題

PTA 事業として各回約 10 講座を実施も参加数は伸び悩んでいます。数より質の重視を継続検討。平日短時間枠の提供は今後検討します。

○居場所づくりは急務。学校・PTA・自治会・企業・行政の役割分担とガバナンスを整え、学びと楽しさを両立する協働型プログラムを試行することが重要。

〈熟議のまとめ〉部活動の地域移行（展開）に伴う放課後の居場所不足が課題です。単なる時間潰しではなく、生徒の自己有用感や心理的安全性を育む「学びのある居場所」の必要性が議論されました。学校が全てを抱え込むことは持続不可能であり、今後は地域人材や卒業生ネットワークを活用したり、学校と地域が責任を分担したりする仕組みづくりが必要です。



各委員が役割を持って発言し 次につながる協議をするためのポイント

- ① 1 人ひとりの意見をじっくり聴く
(全員の意見を平等に大切にする)
- ② それぞれの意見をつなげ、重ねて、
発展させていく・深めていく
- ③ 新しいアイデアが生まれる
- ④ みんなが納得できる意見にまとめる
- どんな意見も受け止める
深める質問で考えを引き出す
- まとまっていなくても自分の言葉で素直に話す
- 相手の言葉をそのまま書く

会議後、今回の会議を傍聴していただきました新潟市教育委員の皆様と校長、CS 会長と意見交換をしました。教育委員の皆様からはたくさんのご意見、ご感想をいただき来ました。



今回の CS 会議の予定 第 3 回 10 月 30 日（金）